

ふくしま

再生 短信

農を支える暗渠

松塚土壌博物館暗渠工事同行記



【背景写真】博物館側から見た暗渠工事現場、粗朶（そだ）の投入が始まった。【各写真】1. 暗渠に埋め込まれた素焼きの土管。2. 土管を粗朶で覆いその上に掻き出した土を埋め戻す。3. 博物館前：暗渠工事「総監督」山田猛史さん（右）と博物館「館長」溝口勝さん。4. ユンボ名人が活躍。5. 館内工事は溝口研チームが手作業で。6. 比曽の暗渠づくり（動画アーカイブへ）。

2018年4月28～29日、松塚土壌博物館の排水のための暗渠敷設工事を担う再生の会チームに記者は同行した。元来暗渠は農地の地下深く敷設されその排水効果は、1) 地耐力（土壌の強度）が増し大型機械の作業が容易に 2) 地下水位の低下で通気性が増し微生物が活性化し 3) 作物の根が深くなり、全体として作物の生育が改善する（溝口研資料より）。今回敷設した暗渠は土壌博物館の展示の一部でもある。工事は博物館を取り巻く山田牧場主人・猛史さんの指導の下で素焼きの土管と粗朶（葉のついた木の枝）を使う伝統的工法で実施された。

折しも比曽では元村会議員・菅野義人さんが暗渠づくりに取り組んでいた。「除染作業で重機に押しつぶされた暗渠を自力で再度作り、水はけを良くしなければ、畑に牧草を蒔くことは出来ない。国はこの作業を支援しない、自力でやるしかない」と、義人さんは話していた」（2018.4.14田尾陽一さん記録：動画6）。暗渠は農を支える底力だ。（文責&背景写真と1～5撮影・若林一平）